

Singapore

2022. 5. 18

シンガポール日本人学校クレメンティ校

寺内 健

赴任して、1年経ちました。

シンガポールでの生活が、一年経ちました。昨年度の一年間、コロナの規制などあり、シンガポールでも思うように学校の行事が進められなかった一年間でした。私は昨年度担任した6年生の子たちとの卒業式の前日にコロナが陽性となり、高熱と咳に苦しみました。一番つらかったのは、自主隔離したホテルで、卒業式の日を迎えたことです。せっかく日本人学校に赴任した年に6年生を担当させていただいたのに、最後は卒業式に出席できませんでした。悔しさと情けなさでいっぱいでした。しかし、3月末、保護者の方々のご厚意で6年3組だけの卒業式をオンラインで行うことができました。私は、一人ひとりに、手紙を書き、一人ずつ思い出を語ったり、感謝の気持ちを伝えたりしました。デジタル化については、少々、苦手意識があるのですが、このオンラインにより、デジタル化のありがたさを実感いたしました。一生の思い出ができた気がします。2か月経った今、担任として卒業式に出席はできませんでしたが、教師として大切な時間を過ごせた気がします。

今年度は、教師生活初めて担任を外れ、学校を支える役割をいただきました。専科として、図工と書写を担当しながら、編入、退学の手続きや担任のサポートなどを行います。日本人学校の特性上、転出入が大変多く、日本全国各地から来る子や、他国から来る子、そして他国に行く子、日本に帰国する子、現地のインターナショナルスクールに通う子、いろいろな子たちがいます。その子たちの学びのスタートや日本人学校に初めて足を踏み入れる保護者の方々のサポートができることがうれしいですし、編入してきてくれた子を担任に引き継げた瞬間は毎回、すごく安心します。これも事務局で対応してくださっているシンガポール人のスタッフや日本人スタッフのおかげですし、海外の学校への入学まで、ビザの取得等を含めた保護者の方々の多くの手続きのおかげです。海外の学校に入学するために、どれだけたくさんの方々の労力が必要か、この立場になって分かりました。だからこそ、より多くの職員や保護者に感謝の気持ちを伝えたり、いい意味で頼ったり相談したりすることも、大切なのだと気付きました。

まだまだ苦勞したり悩んだりすることはたくさんありますが、今年度も一年間、学校に貢献できるようにがんばります。



Singapore

2022. 7. 25

シンガポール日本人学校クレメンティ校

寺内 健

子どもの思いはそこにあるのか

一学期も残りわずかとなりました。シンガポール日本人学校クレメンティ校では、8月から夏休みで8月29日から学校が再開します。コロナ対策による政府の規制も緩くなってきたので、学校での行事や学習中の人数規制もなくなりました。しかし、子どもたちが食事をする場所には保護者は入れないという政府からの通達があり、教室に保護者が入ることはできません。個人懇談、学級懇談、参観授業は、オンラインで行っています。規制の緩和によって再開するのが2年ぶりの運動会です。9月に行いますが、常夏の国なので午前日程で行われます。午前日程ですが、各学年、個人、団体、表現、リレー、応援合戦などほとんど日本の学校と行うことは変わりません。驚いたのが、日本全国、あまりやっていることに、大差がないことです。そのおかげで種目決めに関する話し合いはスムーズに進みました。

しかし、少し疑問を抱いたこともありました。子どものための環境とは、私は、「子どもの思いを形にできる環境」だと考えています。例えば、開会式の練習では、「気を付け!」「頭を動かしません!」「礼は1、2、3です!」「ゴソゴソしない!」と先生は指導するでしょう。表現運動では、「腕を大きく!」「足はこう!」「そうそうその調子!」と時には褒めたりしながら進めていくでしょう。でもそれは、本当に子どもがやりたいことなのでしょうか。子どもの思いはそこにあるのでしょうか。「運動会の在り方を根本から考えてみたい。せっかく、新しいものを作っていくしかない年なのだから、運動会の在り方を今こそ考え直したい」と体育部の会で提案しました。クレメンティ校の職場は、日本全国から集まった素敵な、そして自己主張の激しい先生方が多くいる職場です。だからこそ、このことについてしっかりと対話をしてくださいました。対話の中では、「子どもが頑張ったよかったと思えるには何をどう進めるか」と教師は考え、「なぜ運動会をするのか」「どんな運動会にしたいのか」「そのために何をどう進めていくか」を子どもと一緒に考え、「子どもと創る運動会」にしたい。たとえ、種目や学習内容が例年と変わらなくても、教師と子どもとで意見交換をする時間を設けるだけでも、「子どもと創る運動会」に近づくのではないかと話し、応援団の子どもたちにまずは投げかけてみようという話にまとまりました。

教師と子どもと一緒に目標を立て、その目標に近づけたか、子どもと一緒に振り返ることで、運動会が終わった後、「運動会を自分たちの力で創れた!」という思いに近づける気がします。運動会はそういう意味では授業づくりと同じかもしれません。「子どもと創る授業」「子どもと創る行事」という意識をもちたいと思います。しかし、限られた時間の中で、子ども主体を貫くことには、教師側の忍耐や覚悟、子どもに提供する時間も多く必要です。すべてを子どもに委ねるのは難しいですが、新たに始まる行事が多くあるので「子どもと創るんだ」という意識をもって、シンガポール日本人学校で再開する行事を、職員みんなで進めていきたいです。



Singapore

2022. 10. 18

シンガポール日本人学校クレメンティ校

寺内 健

校内、マスクオフになりました

コロナウイルス対策により、シンガポールでも、多くの行事が中止になったり、政府からの厳しい規制で生活が制限されたりしていました。しかし、現在は、学校の中でもマスクオフです。1年間、顔を合わせてきた現地の英語教師やセキュリティーさんのマスクオフの顔も先日、初めて見ました。セキュリティーのムスタファさんとは「I'm first time to see your face!! You are so handsome!!」と、大笑いしながら会話をしたくらいです。日本人は同じような顔に見えるようで、分かりやすくなったと嬉しそうでした。顔を互いに見合うことは、笑顔から元気をもらえるなど最近強く感じています。山口県の教員として、日本の教員として、日頃の会話や日々の業務の中で、私も周りの人に元気を届けられるといいなと思っています。

今回は、これまでできていなかった行事や交流が再開したので、様子をお伝えしたいと思います。

【現地校 チーフアー小との交流】

2年生とチーフアー小の交流を行いました。この交流は、外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。また、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う目的で毎年行われています。今年度は、コロナの規制緩和により対面方式で行うことができました。

当日は、英語による自己紹介をはじめゲームなどで交流を深めました。子どもたちは、最初は緊張している様子でしたが、徐々に慣れていき意欲的に英語でコミュニケーションを図る姿が見られました。

2学期も各学年で現地校との交流を計画しています。今後も現地校との交流から国際交流を図りたいです。



【英語科表彰】

オンラインの全校朝会で英語科表彰を行いました。英語科 I では、授業にやる気をもって取り組み、その学期に英語が上達した児童を毎学期、表彰しています。賞の名前【improved】にもあるように、その子の授業態度や頑張り、その子自身の英語が学期中に上達したかどうかに着目しています。

英語科の授業は能力別に15クラスに分かれて、週3時間行う特別カリキュラムを全6学年で実施しています。本校の特色の一つです。クラスで一人のみに与えられる限られた賞です。受賞を励みにして、今後も意欲的に取り組むことを期待しています。

